

平成25年度県立学校経営予算プレゼン事業レビューシート

<p>学校名</p>	<p>岡山県立林野高等学校</p>
<p>事業名</p>	<p>「森と海をつなぐESDプロジェクト」</p>
<p>事業の必要性・テーマ</p>	<p>本事業のテーマは「吉井川流域の歴史や文化、経済や環境等について、他と交流を深めながら多角的に考察し、持続可能な社会の実現とその主体的形成者となる意欲を醸成すること」である。</p> <p>本校は、総合的な学習の時間(校内名「MDP」)において、中山間地域の活性化策を発信する拠点となるべく、学年を越えた縦割りグループで活動を進めてきたが、その中で浮上した課題の一つに、「生徒の経験値の不足」があった。</p> <p>現在までも、大学等の研究機関だけでなく、地域に密着して活動を展開している方々も含めて、様々な分野からエキスパートに來校していただき、生徒自身が課題を発見・考察・解決するためのアドバイスを頂いてきた。また、その中で、特に地域学のエキスパートに学ぶ場合には、フィールドワークに出掛け、実践的に学ぶことも積極的に進めてきた。しかし、絶対的な経験量は未だ不足している。そして、こうした方々に來校いただき、また本校生徒がフィールドに出かける上で、大きなネックとなるものが「講師料」及び「交通費」である。</p> <p>本事業をプレゼンテーション枠で申請した理由と必然性は、この「活動資金の確保」に重きを置く。なお、事業の継続性については、現在展開しているMDP活動はH24～H26の3カ年の中期計画に沿っており、再来年度で一つの区切りとなるため、本事業で大きな枠組みを作り、来年はそれを踏まえて精査をした上で活動を計画する。そのために、あらかじめ今年度から、美作県民局地域政策部をはじめとした公的機関やNPO団体と連携しながら、持続可能な事業として位置づけていくことを念頭に置いて、プロジェクトを展開していく。</p>
<p>事業の概要・進め方</p>	<p>本事業の概要は以下の通りである。なお、前述の通り、事業を展開するにあたって、美作県民局およびNPO法人諸団体と協働する。現段階での具体的プランとしては、本事業の人的・広報面のサポートを美作県民局に仰ぎ、「教育の要素を含んだコミュニティビジネス」のパイロットモデルとしても位置づけていく。</p> <p>○講師の招聘 この活動はMDPにおける生徒の縦割りグループが中心になる。今年度、全部で10の大グループの下に、それぞれが設定したテーマに従っていくつかの活動チームが存在するので、H24年度は、全体として32チームが活動していた。これらのチームが、今年度は6/6に「デイ場」という名称のもと、実際にフィールドに出かけ、また講師の方のアドバイスを頂いた。来年度以降も同様な活動を考えているが、それに加えて「必要な時」にも來校していただけるようにしたい。</p> <p>○山村ミニ留学(交流) 現在、美作市梶並および上山にて、「美作地域おこし協力隊」並びに地域の方と連携した活動を進めている。ここに、本校生徒だけでなく、他校の児童・生徒・学生との交流や協働の場を設け、「持続発展可能な社会」の形成者としての自覚を強化する活動の拡大を図っていききたい。そのための会場費や交通費の補助としての活用を考えている。</p> <p>○ICT機器の充実 上二つの活動を支えるものとして、ICT機器の充実を考えたい。i-Padを活用して小学生対象の学習支援ボランティアを実施したり、交流成果をデジタル映像として記録・共有・公開したりする予定である。公立高校初となったFacebookページへのアップロードも考えている。</p>
<p>達成目標</p>	<p>本事業の達成目標として、実現したい効果と影響を挙げる。9月の「むかし倉敷ふれあい祭」で中間発表、12月の「MDP実践報告会」で総括した上で、年度末にはHP上で成果を報告したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 中山間/都市周縁地域の活性化 本校がいわば「結び目」となり、吉井川流域に学校間ネットワークを構築していくことで、美作市から津山市、県南部にかけても人的交流が始まることを期待できる。具体的に、現在起動しつつある高等学校ネットワークは、本校・津山商業・勝間田高校・矢掛高校であるが、これをさらに拡大していきたい。 学校間交流による学習意欲の向上 山村ミニ留学や学習支援ボランティアを通じ、校種の異なる児童・生徒・学生が交流することで、そこに参加した個人は知的刺激を受けることができる。さらに交流が進めば、それは集団として方向性を設定するものになるので、地域全体の学習意欲の向上が期待できる。 「地域への愛着」の醸成 これらの活動に参加したそれぞれの学校の立地地域においても、児童・生徒・学生が、今まで以上に「地域」に寄せる関心や期待を深めていくことも効果の一つとなる。「地方の時代」を実現させるためにも、低年齢時からその一員としての意識を醸成する必要がある。 <p>数値目標は2種類を挙げる。2に関わって、ミニ留学及び学習支援ボランティアを、併せて5回以上実施すること、3に関わって、年度末に実施するループリック評価のうち、「目的に向かって周囲の人々に働きかける力」及び「未来を予測し、課題解決に向かう自律的な態度と能力向上」に関するスコアについて、3・4(獲得できたとする評価)とした生徒が70%以上となることを目指す。</p>

平成25年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

実績と成果	6/4 MDP「デアイ場」 矢掛高校・真庭郡新庄村・美作市梶並・本校等、全校生徒参加	事業 達成率	100%
	7/20～21 矢掛高校白石島ESDキャンプ参加 生徒5名参加		
	7/22～23 国際交流EnglishCamp 参加生徒数:本校25名、津山商業高校4名		
	7/29 小中学生対象国際交流DayCamp 市内小中学生33名、本校生徒14名参加		
	8/19 特別講義「民俗学入門～地域を考える～」 国立歴史民俗博物館教授 小池淳一先生 参加生徒25名		
	9/28 むかし倉敷ふれあい祭り 全校生徒参加、地域・行政・他校園と連携。		
	11/2～4 The Asia-Pacific UNESCO ASPnet ESD Students Forum in Sakai,2013 1/11 International Forum on UNESCO ASPnet -Student's Forum- Pre-Forum in Okayama ESDチーム所属生徒:10名・その他の生徒のべ22名参加。		
	iPad-air 7台購入 活動の記録とシェアに活用。		
	3/15 和歌山県立粉河高等学校ジョイントフォーラム参加 生徒12名参加予定(シート提出時未実施)		
<ul style="list-style-type: none"> ・目標1「中山間／都市周辺地域の活性化」 「むかし倉敷ふれあい祭り」について、地域の方々および美作市役所から、「実施3年目にしてイベントとして成功だ」と評価を受けた。また、各高校との交流も実施できた。 ・目標2「学校間交流」 DayCampでの活動を通じ、小中学生との交流を深めることができた。また、ふれあい祭りやESDフォーラムでもそうした交流は随所に見受けられ、生徒全体の活動意欲は増加している。 ・目標3「地域への愛着」の醸成 「デアイ場」を始めとした、地域をフィールドとした様々な活動は、確実に生徒の意識を変えつつある。白石島ESDキャンプに参加した生徒が、過疎高齢化問題は中山間地域だけに限ったものではないと実感し、進路目標をより明確化したことなどはその現れの1つである。 	総合 達成率	100%	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の絞り込みとカリキュラムへの位置づけ 本年度、手広く行った活動を集約し、効果的なものに再構成していくことが、この活動を継続させるための課題であろう。活動の継続のためには、カリキュラム上へ明確に位置づけていくことが重要であり、その1つとして、来年度から開講される学校設定教科「みまさか学」が挙げられる。MDPIにおいて、引き続き活動を進めることはもちろんであるが、この科目では、特に美作市・西粟倉村で活動している「山村エンタープライズ」「NPO学生人材バンク」と協働し、特に講師招聘面でのアドバイスを受けながら、持続発展可能な地域社会の中心的な役割を果たすことができる人材の育成を進めていきたい。 また、ESDの観点を、各教科の年間指導計画に明示していくことで、MDP・みまさか学とその他の教科とが連結されていることを、学校として明確に意識化していきたい。 		

平成25年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

学校自己評価	5段階評価	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
	次年度以降の継続性	<p>中山間地域において、持続発展可能な社会を構成する人材の育成は急務であり、本校がその重責を果たさなければならないことは言うまでもない。来年度以降は、今まで以上に県民局や市役所などの行政機関と連携を図っていききたい。また、NPO法人学生人材バンクを通じた鳥取大学地域学部との協働・連携強化も図っていききたい。さらに、前述のように、「成功した」との評価を受けた「むかし倉敷ふれあい祭り」についても、例えば祭り会場のデザインと来場者の動線確保、地域商店街とタイアップしたワゴンセール企画など、継続的・発展的な取組を進めていききたい。</p>
主管課評価	5段階評価	5 ・ 4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
	見直しの余地改善提案等	<p>マイ・ドリーム・プロジェクト(MDP)を核として、様々な取組を実施した結果としての生徒の変容は見事なものであり、中山間地域における普通科学校が取り組むべき活動のモデルを示すことができている。また、「むかし倉敷ふれあい祭り」をはじめとした地域と連携した事業を実施することにより、地域の活性化にも貢献している点は、ESDの視点に立った学習指導の成果が表れたものとして評価できる。</p> <p>今後は、MDPIに加え、来年度から開設される「みまさか学」において、系統的に地域を教材とした課題解決学習を進めることにより、地域を愛する生徒の育成を行うとともに、地域への情報発信を積極的に行い、今以上に地域から愛される学校に発展していくことを期待している。</p>
委員評価	5段階評価	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
	指摘・指導・助言	<p>ESDをメインテーマとした諸活動を通じて、生徒たちは、しっかりと自分たちが経験したことを振り返り、自分たちの良さを見つめたり、捉えたりすることもできており、最終評価で見た生徒自身の成長の姿も併せ、この1年間の活動の顕著な成果であると思われる。特に、マイ・ドリーム・プロジェクト(MDP)は長年にわたって継続されてきた教育活動であり、今年度の事業がMDPを強化することにつながったかという点については不明確な面もあるが、本事業の来年度以降への継続性も担保されており、また「みまさか学」など来年度以降のカリキュラムにも反映されていることについても、今年度の事業成果として評価することができる。今年度の多くの取組によって開発された学習内容・方法や学習成果が生徒たちの間で共有されるとともに、先生方の教育活動の指導の礎として蓄積されることを期待したい。</p> <p>また、MDPへの取組を基礎とした取組は、地域貢献や社会奉仕などの地域との具体的な連携と学習活動を結びつけるものであり、中山間地域における普通科高校在り方を示すものだと考えられることから、これを林野高校の特色としてさらに発展させていただき、より多くの生徒にとって魅力的な学校となるよう期待したい。</p>